

2023年6月4日 三位一体主日のミサ

ハビエル・アパリシオ・スアレス Javier Aparicio Suárez 神父の説教
(ザンクト・オットィリエン修道院)

私たちの一生は、真理を求め続けます。例えば身近なことについての真理、わたしたち自身、つまり人間についての真理を。しかし、何よりも人間の心には、最も重要な真理、すなわち、すべての真理の始まりであり終わりである、真理としての神を知りたいという渴望があります。聖アウグスティヌスはこの渴きを、よく知られた次の言葉で表現しています。「主よ、あなたは私たちをご自身のために創造されました。私たちの心は、あなたのうちに休まるまで落ち着きません」(『告白』I、1、1)。

ここで、3つの異なる種類の知識について簡単に説明しましょう：
現実を知るための第一の方法は、現実を使いこなすことです。私たちは、何かを使いこなし、それに影響を与える程度に、何かを知っています。この方法は、実験科学の分野では非常に肯定的ですが、個人的な人間関係の分野では悲惨なものです。

第二の方法は、私たちが知っていることを、私たちの生活に何の影響も与えず、無関心に扱うというものです。このモデルもまた、私たちの対人関係や神との関係を支配すべきものではありません。しかし、このアプローチは私たちにとっても異質なものではありません。特に、私たちが神を二次にしたり、その存在に無関心だったりする場合です。

最後に、第三の方法は、私たちのすべての能力、私たちの全存在、私たちの心を働かせて現実と関係し、現実から影響を受け、変化を可能にすることです。これこそ、私たちが神の真理を少しでも体験するための本物の方法であり、神との深く真の関係を築く唯一の方法なのです。

父と子と聖霊である神は、私たちの命の源であり、命を支え、その究極の目的である方です。

イエス・キリストにおいて、神はご自身を、違いを尊重する愛の「共同体」として示されています。これこそが真の愛であり、尊敬に値するものです。三位一体は私たちが愛しているからこそ、私たちが尊重するのです。神は私たちが抑圧せず、私たちに取って代わらず、ご自分の意志や法を強制的に押し付けず、私たちに自由を残してくださいます。そして、私たちの選択が失敗したとき、私たちの歩みをたどり、人生の道を再開させるために手を差し伸べてくださいます。

今日の日曜日の福音書(ヨハネによる福音書3:16-18)には、キリスト教の歴史の中で、愛の意味を広めるために最も貢献した文言の一つ、「神は、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛されたので、彼を信じる者が滅びることなく、永遠のいのちを得ることができるのです」という言葉があります。私たちが救うために、神は、最も大切にしているものを与えてくださいました。このようにして、神はご自分の愛の偉大さを私たちに示されたのです。旧約聖書を通して、私たちは、神が世界を愛していることをすでに知っていました。しかし、新約聖書は、この愛の偉大さを私たちに明らかにしています。もしキリストが私たちのために死ななければ、私たちは神が私たちが愛していることを知ることはできても、それがどの程度なのかはわかりませんでした。多くのキリスト教徒が、この言葉に心の安らぎを見出しています。

イエスを信じるということは、イエスにしがみつくと、イエスに身を寄せること、イエスを信頼することです。

イエスによる救済は、神と、自分自身と、そして他者と平和に生きること、つまり、神の子として、他者の兄弟姉妹として生きることにあります。

永遠の命は、生物学的な命以上のもので、私たちが別の次元の命へと導きます。永遠の命を持つということは、神の親密な命を共有することです。

私たちの全生涯が、この三位一体の神を日々よりよく知り、より愛したいという願いと、できる限り神に倣うという固い決意によって決定されますように。(訳：宮本絢子)